令和元年度

ウッドシティ TOKYOモデル 建築賞 受賞作品集

東京都

ウッドシティTOKYOモデル建築賞について

概要

東京都では、木材の大消費地・東京において、新たな木材需要を喚起することで、多摩地域をはじめ全国の森林循環を促進し、林業・木材産業の成長を図ることを目指しています。この度、大都市東京において木材利用の新たな可能性を開拓する革新的・モデル的な建築物又は木質空間を表彰するコンクールを実施しました。

応募対象

・東京都内に所在すること。
・公開可能な非住宅の施設であること。
・構造材や内装材などの全部又は主要な部分に国産材を使用していること。
・直近５年以内（平成26年４月１日から募集開始の前日まで）に竣工した木造及び混構造建築物、又は直近５年以内に木質化した空間。
・建築基準法等各関係法令を遵守していること。
・同一の建築コンクール等において、知事賞や大臣賞の受賞歴がないこと。

審査における着眼点

・国産材の特徴や良さを活かし、有効活用しているもの
・先進的な木材利用の普及に寄与するもの
・都市部における建築物の木造化、木質化への波及に寄与するもの
・建築物又は木質空間として優れたデザインであるもの
・建築等の過程において女性が活躍したもの
（女性活躍賞のみの着眼点）

表彰

優秀作品については、東京都知事賞（最優秀賞：１点・優秀賞：２点・女性活躍賞：１点）、産業労働局長賞（奨励賞：６点）を贈呈しました。
P３より紹介します。

審査経過

・令和元年７月１日～８月31日　作品募集
・令和元年10月24日　審査
・令和元年12月10日　表彰式
（WOODコレクション（モクコレ）令和元年開会セレモニーにて）

審査委員（五十音順）

・秋山 延江 氏
（一般社団法人日本インテリアコーディネーター協会 副会長）

・多幾山 法子 氏
（首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域 准教授）

・原田 真宏 氏
（株式会社マウントフジアーキテクツスタジオ一級建築士事務所主宰建築家、芝浦工業大学建築学部建築学科 教授）

・古谷 誠章 氏
（早稲田大学創造理工学部建築学科 教授）

・東京都産業労働局 農林水産部長

ウッドシティTOKYOモデル建築賞　受賞作品集

目次――CONTENTS

最優秀賞

01　柳小路南角（やなぎこうじみなみかど） …… 4

優秀賞

02　神田明神文化交流館 EDOCCO …… 6

03　日野わかくさ幼稚園 …… 8

女性活躍賞・奨励賞

04　TOKIO MARINE CAREER DEVELOPMENT CENTER …… 10

奨励賞

05　Gビル　自由が丘01　B館 …… 12

06　神宮前3丁目プロジェクト（allée de JINGUMAE） …… 14

07　水天宮御造替（ごぞうたい） …… 16

08　MIRAI LIVELY HOUSE …… 18

09　明治神宮CAFÉ「杜のテラス」 …… 20

受賞作品所在地情報 …… 22

※受賞作品ページ掲載の図面中の縮尺表示について
一部の図面中にある縮尺表記は受賞者から提供された図面原本のものです。
図面原本を本誌のサイズに合わせ縮小など行いレイアウトしていますので、誌面上で縮尺は正確ではありません。

２階の構造体

１階の構造体。高さ２mの独立基礎に木の柱が載る。
床はRC造。打設計画に工夫を要した。

木構造の上棟時の様子。木同士が「貫」のようにぶつかる力強さやそこから生じる安心感を重視した。

01

最優秀賞

柳小路南角（やなぎこうじみなみかど）

受賞者
設計者　三井嶺建築設計事務所
設計者　坂田涼太郎構造設計事務所

東京・二子玉川におけるテナントビルの計画。「柳小路」と呼ばれる路地の入り組んだエリアにある。クライアントの要望は、ショッピングセンターにはない街場感を作り、新築に見えないように最初から街に馴染むこと。しかし現代的に。

この難題を解くために、「木」を使うことで、建物に「温もり」を与えることにした。

木造はプレーナー処理前の製材を束ねた、前例のない柱と梁の構成。荒々しくも柔らかい木の質感と量感、梁が柱を貫く「貫」の力強い接合部が、安心感と居心地の良さを作り出す。

元請の施工者決定に先立ち、木造部分については福島県の木材加工・施工会社である株式会社オノツカと加工方法・建方・コストコントロールについて綿密なやり取りをした。同じ福島県の木材供給事業者より福島県の木材を仕入れることで、産地から工場間の輸送エネルギーの削減を可能とし、依然として被災から復興の半ばである福島県の産業を利用することも意識した。

なお、商業施設のため、コンクリート床を要求された。床が重く、地震時の水平力が大きいため、無理に木造にこだわると耐力壁だらけとなり閉じた空間になってしまう。商業施設にふさわしく外部にも木架構を見せるオープンな建物とするため、鉛直荷重に対しては木架構、水平力に対してはRC架構が負担する平面混構造を採用した。

効果的に木造を採用することで、ショッピングセンターにはない街場感が生まれた。木造とRC造を適所適材で用いる参考事例になることを目指した。

燃えしろ設計による１時間準耐火

耐火試験で燃えしろ60mmをクリア

ラフ材をビスで合体させた「重ね梁」

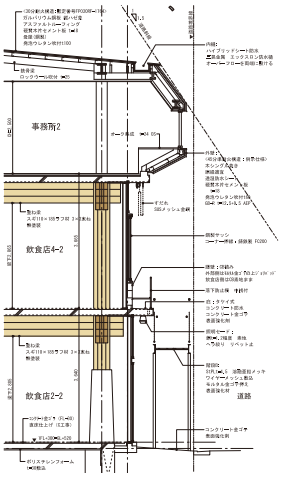
曲げ試験を実施、構造評定を取得

東京・二子玉川の路地の入り組んだエリアに建つ。もとの街割に倣い各階３店舗とした。

集成材を用いず、一般流通材のプレーナー処理前の製材を束ねた柱と梁。前例のない構造の試み。

RCスラブを木の柱・梁で支える

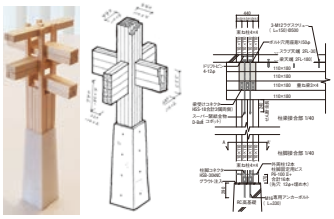
1-2階は木造とRC造の混構造で、木造は鉛直力を負担。重ね梁の上に型枠を組んでRCスラブを打ち込んだ。



断面詳細図　1/60

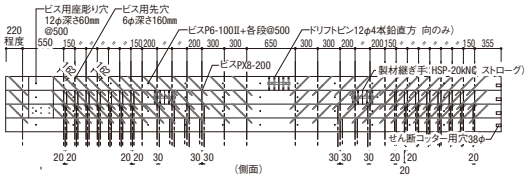
3列×4段の重ね梁が柱を貫く

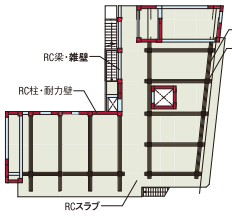
柱は110角、梁は110×180の杉材を束ねた。機械等級区分のE70とし、杉材として無理のない強度とした。



斜め打ちのビスで重ね梁を製作

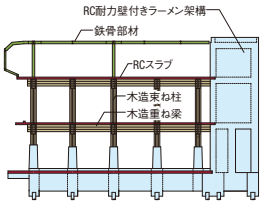
長ビスを斜めに打ち込んで上下を接合。ビスのピッチを応力に合わせて変えている。
木材は、加工・施工会社と供給者を共に福島県の企業とすることで、産地から工場間の輸送エネルギーの削減を可能とした。





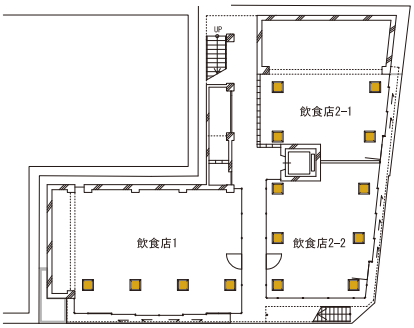
RC架構をバランスよく

1階構造見上げ図。L字を描く平面の中で、RC造の柱や耐震壁は、偏心を避けるとともに、平面の両端や、前面道路とは反対側の奥に位置している。

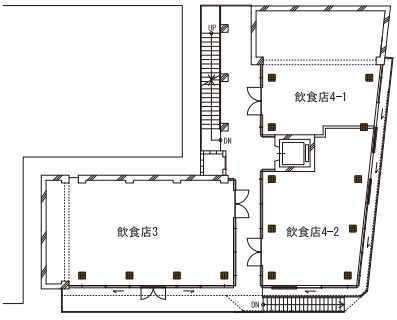


ファサード側に木造加工

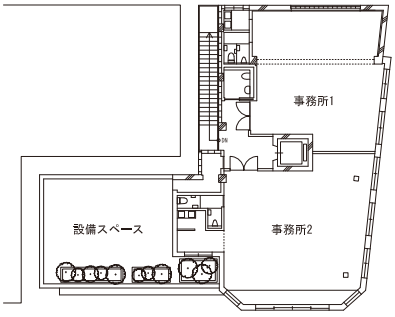
軸組み図。RCの耐震壁は、前面道路とは反対側に配置しているので、道路側のファサードに面して、木造の束ね柱や重ね梁の架構が連なる。



1階平面図



2階平面図



3階平面図

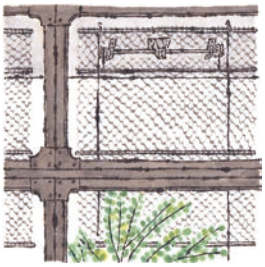
「柳小路南角」を構成するエレメント

レッドシダーのシングル葺きの3階外壁

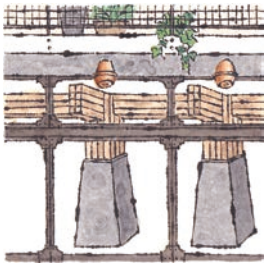
外装と植栽

店内に入り込む土木的スケール

梁が柱を貫く力強い接合部

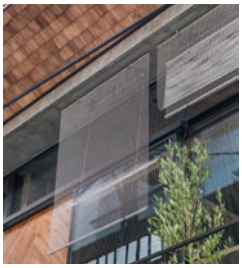


鋳鉄製建具と金属製すだれ

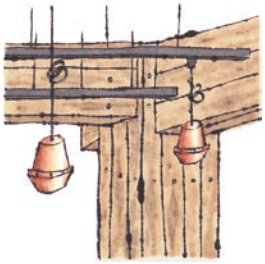


巨大なコンクリート独立基礎

木造を内装で生かす



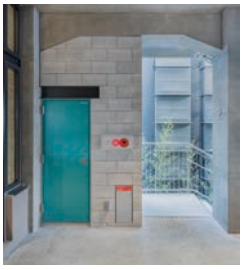
金属製すだれによるシェード



銅シェードと木柱

丸いコーナーの鋳鉄製建具

少しずつ折れ曲がる共用路地



改修を意識した多重人格の設計

受賞概要・講評

東京都世田谷区玉川に所在する、プレーナー処理前の細い柱を結合し大断面の構造材として活用した混構造建築のテナントビル。福島県の供給事業者より調達した国産のスギ材を活用し、梁が柱を貫く「貫」の力強い接合部が特徴となっている。

本作品については、大規模建築ながら集成材を用いず、一般流通材の製材を重ねてビスで固定し、大きな柱・梁として活用されたチャレンジ性、またプレーナー処理前の製材により生まれる木造ならではの独特なコラージュ感等が評価された。

photo by Jérémie Souteyrat

可動間仕切とサッシを開け放つことで、ホールとホワイエ、境内が一体化する

02

優秀賞

神田明神文化交流館 EDOCCO

受賞者
施　主　宗教法人 神田神社
設計者　鹿島建設株式会社建築設計本部
施工者　鹿島建設株式会社東京建築支店

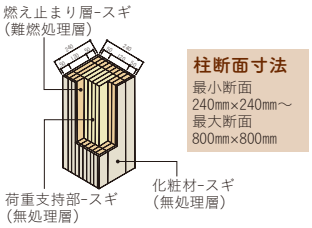
本計画は神田明神の創建千三百年の記念事業として、参拝者や観光客、さらに外国からの来訪者に日本の伝統文化を伝えることを目的とし計画された。1階に神札授与所やカフェ・物販店舗、2-3階にライブなどのパフォーマンスが観られる多目的ホール、4階に貴賓室、地下1階には日本文化の体験スペースからなる、地下1階、地上4階の複合施設である。各フロアには様々なアート作品が配され、連綿と受け継がれてきた歴史の継承のみならず、多様な価値観を受け入れ、新たな文化を創出する交流の場を創りだしている。

「伝統と革新」というコンセプトのもと、その時々の文化を伝える姿として、建築自体が主張するのではなく、力強い木フレームや木質化された空間越しに、その時代の文化やアクティビティが境内へと染み出すファサードとした。現在の御社殿は、関東大震災による倒壊を機に、築地本願寺の設計などで知られる伊東忠太の設計監督により、鉄骨鉄筋コンクリートという当時の先端技術が採用されている。革新を積極的に受け入れてきた伝統と精神に応えるために、文化交流館には現代の先端技術である耐火木造が採用された。

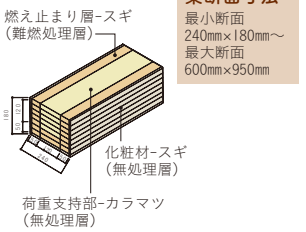
周辺地域に面する外装には、鎮守の杜の木々の揺らぎや、重なりを表現したプレキャストコンクリートの外装、ホール内装は、随神門の赤と黒、肘木の持ち出しをイメージさせる木製ルーバーなど神田明神らしさを表現した。

都市への木づかい　純木質耐火集成材の採用

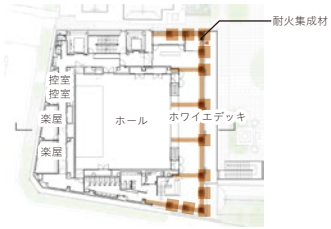
柱



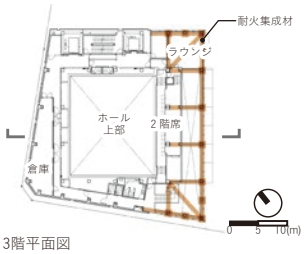
梁



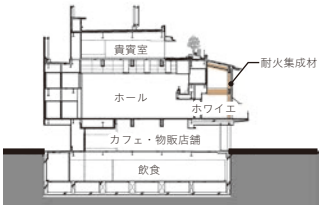
構造部材には純木質耐火集成材を採用。荷重支持部を特殊な薬剤を染み込ませた燃え止まり層で覆うことで、火災時の熱が伝達することを防ぎ、石膏ボードなどの不燃材を用いることなく優れた耐火性能を発揮する。



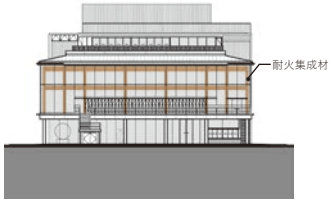
2階平面図



3階平面図



断面図



東立面図

森と都市と人を繋ぐ　東京・多摩産材の活用

参拝客が気軽に立ち寄れる1 階カフェ・物販店舗の什器、2-3 階ホワイエの柱・梁に使用する木材の大部分は、神田神社が祀る平将門公と縁が深い多摩地区のスギ材を使用。森・都市・人をつなぐ場を創りだしている。

1 階 カフェ・物販店舗

鎮守の杜に抱かれた境内をイメージさせるホール

2019 年元旦の様子。神田神社には三ヶ日で約30 万人が訪れる

技を現代へ繋ぐ　仕口加工・建方技術の応用

登り梁と 2 方向からの梁が鋭角に交わる南東角、柱と梁を交互に建て逃げてゆく建方などの難易度の高い工事には、木造文化が育んだ知恵と経験が応用された。
多摩産材の利用拡大、東京の森の適切な維持管理・循環利用に寄与していることを明示し、多数の来訪者への情報発信と地域材に触れる機会の創出を図っている。

ホワイエとホールが境界なく一体的に使われる

木フレームが建築の構えを顕在化する

受賞概要・講評

東京都千代田区外神田に所在しており、神田明神創建千三百年の記念事業として日本の伝統文化を伝えることを目的とし建設された。東京都の多摩産材が内装材、構造材等様々な箇所に活用されており、また構造部分には純木質耐火集成材を使用している。

本作品については、多くの来場者がある史的な施設において、燃え止まり層として難燃処理木材を使い耐火木造とした点、また社殿とのバランス感や対比の美しさ、昼夜で変わる建物の表情等が評価された。

撮影：神田明神

本園舎

03

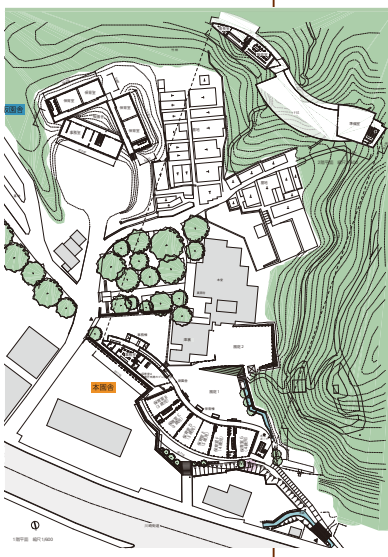
優秀賞

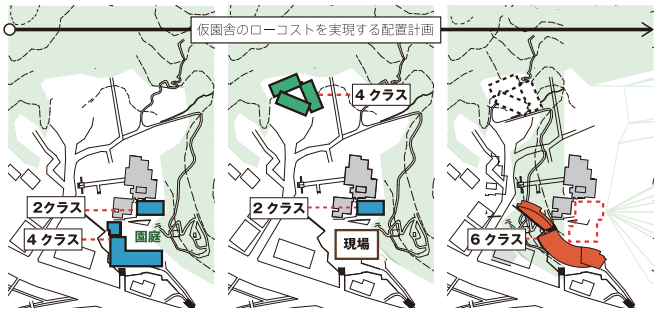
日野わかくさ幼稚園

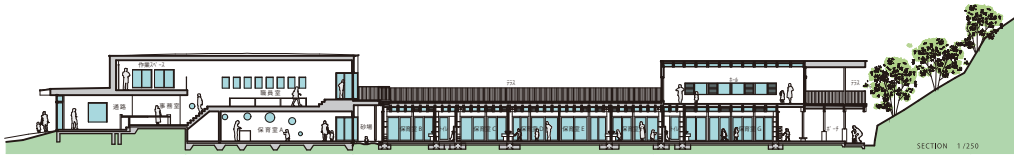
受賞者
施　主　学校法人 清谷学園 日野わかくさ幼稚園
設計者　株式会社彦根建築設計事務所 彦根アンドレア
施工者　株式会社 和田工務店

日野わかくさ幼稚園は百草園駅から徒歩２分の場所にある。ここはわかくさ山を中心とする小高い山の麓で、真照寺を中心にわかくさ山と周辺の山を回遊できる広大な敷地にある、６クラス編成のこぢんまりとした幼稚園だ。半世紀近く大切に使われてきた木造園舎の建て替えは「再度、木造で」という強い希望があった。新園舎では山、寺、地域周辺の環境を一体に繋ぐと同時に、自然と共に生きる園の方針を建築に具現化したいと考えた。山と道路の両側を全面開口としたオープンな教室が園庭を扇状に囲むようにして配置し、斜面に沿って二段に分かれた園庭は山へと緩やかに繋がる。事務棟はバスで登園する園児達の玄関口。また交番横には徒歩での通園用に用意したアプローチは山裾から湧き出る小川に沿って散策が楽しめる場になっている。

園児達は建て替えに当たり１年近く仮園舎で生活することになるため、SE構法を用いた仮園舎を建造した。また建築の面白さに触れる時間としたいと考え園児・父母・職員などが建築に関われる「参加型幼稚園」というプロジェクトとした。仮園舎に続き、本園舎建設の際も親子や地域の人達と共に教室の壁や外壁の屋久杉材をペイントし、完成させた。このプロジェクトは、建物への愛情が深まり、幼稚園を取り巻く地域や環境との関係を再構築する機会となった。終始笑顔の絶えない幸せなプロジェクトが子供達の記憶に残るだろう。





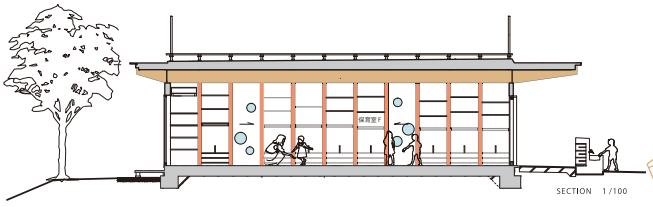


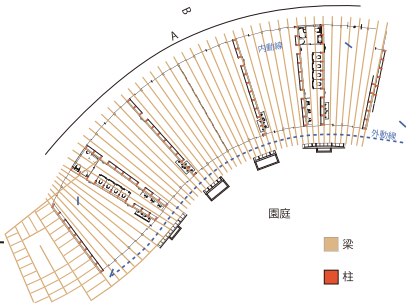
木材活用

構造材には大断面集成材を使用。家具と床材には地域の多摩産ヒノキとスギを使用し伐採などの森林の循環に貢献。
外壁、デッキ、ボードウォークなどは地域再生を考え、防腐性、防蟻性、強度の強い屋久島地杉を使用する。それぞれの材料は現しとし、子供たちが触れられるようにして、木材の良さを体で感じ記憶できるように考えた。

構造について

扁平柱を扇状に配することでA方向の壁無しに耐力を担保し、B方向への開放性を可能にしている。突き出し梁で大きな軒をつくり柱を落とさない開放的な外動線をつくり出している。





保健室の自由度を上げ明るい場所をつくるため、園庭に中心点をもつ放射状の扇形平面とし、半径方向には保健室の間に壁を設け円周方向には壁をなくし開放的な空間となる形を基本プランとした。水平力に対し半径方向は耐力壁形式、円周方向はラーメン形式を採用し、木造ラーメンは大断面集成材を使わず、安価な住宅用の中断面集成材とプレカットでできる引きボルト式ラーメンとした。120×360の中断面集成材の扁平柱を保育室と保育室の境に910mmピッチで立てることにより、奥行360mmの収納壁として使えるように考えた。円周方向へ梁を架けた場合、梁のスパンが16mを超えてしまうことから小梁は半径方向園庭を中心に扇形状に架け渡すことにした。これにより半径方向の小梁は保健室スパン10mに両端の軒の跳ね出しを加えた長さ約12.7mの搬送限界ぎりぎり長さの1本もの集成材とし、扇形の保育室天井に放射状に現しで架け渡した。視線が園庭の中心に向かう方向性を与えると共に、軒桁支点部の梁と梁の間に窓を設ける事でより、梁それぞれの流れが協調された。
（構造設計：稲山正弘）

仮園舎

本園舎

受賞概要・講評

東京都日野市落川に所在する幼稚園。半世紀近く親しまれてきた木造の旧園舎の建て替えが、再度木造にて行われた。建て替えにあたり、東京都の多摩産材が家具やフローリングに用いられた他、屋久島の地杉も柱や外壁等に活用されている。

本作品については、木を用いた仮園舎や園児・父母等関係者が一体となった園づくりといった、建築のプロセスに優しい目線がある点、また子供目線で作られた可愛らしくきめ細やかなデザイン等が評価された。

撮影：Nacasa & Partners

エントランス / 階段状ベンチ

04

女性活躍賞・奨励賞

TOKIO MARINE CAREER DEVELOPMENT CENTER

受賞者

女性活躍賞

東京海上日動火災保険株式会社　永田 さくや
株式会社三菱地所設計　森本 順子
清水建設株式会社　粟野 梨実菜

奨励賞

施　主　東京海上日動火災保険株式会社
設計者　株式会社三菱地所設計
施工者　（仮称）東京海上日動西落合研修所新築工事共同企業体

本作品は、都心でありながら緑豊かな公園に隣接する、東京海上グループの宿泊付研修施設。約450人収容可能な大会議室、約20人が利用可能な小会議室が11室、朝昼夜３食提供のカフェテリアを有する研修棟と、計240人が宿泊可能な宿泊棟の２棟が一体となっている。

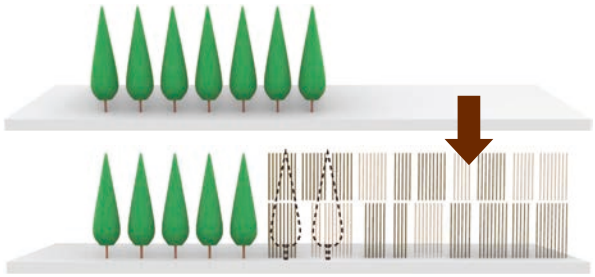
国産材を活用した地域創生を図るため、総立米数105.15㎥の木材を、建物の外装・構造・内装・家具・サインと多岐にわたり使用した。多様性を尊重する企業理念に基づき、様々な木材の使い方で空間の多様性を表現し、ディスカッション・集まる・休憩とシーンや気持ちに合わせて選択できる空間をつくった。

・地域の景観に連続する「ヒノキ無垢材外装ルーバー」（W240× t 40）
・流通材を活用した「120角から35角へと木材サイズ・空間が変わる溜まりの場」
・気づきが生まれる「CLT製ベンチ・国産材９種のハイテーブル」
・迎え見送る「CLT造木材現しの門」

これらを通して、木の温もりに包まれたリラックスできる空間の中で、コミュニケーションやチームワークをディベロップする「Nest」を作り出した。

地域の景観に連続する外装

既存樹木の一部の伐採を余儀なくされたが、天然木のスクリーンに代えることで既存樹木に続く新たな並木をつくる

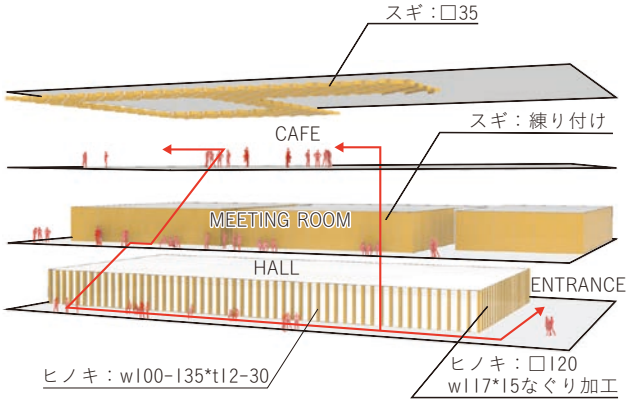


敷地半分に林立する既存樹木

宿泊棟 外装ヒノキ無垢材ルーバー

木材の多彩な利用による空間

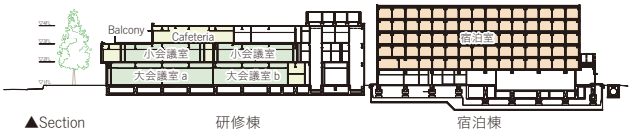
エントランス、ホワイエ、カフェへと、フォーマルからカジュアルに変化する空間に呼応し、木材形状も120角・W100＊t12・練り付け・35角などとサイズを変化させ、なぐり加工・格子形状と木材の表現を組み合わせることで、多様な木材のあり方を追求し、多様な空間演出を行った。



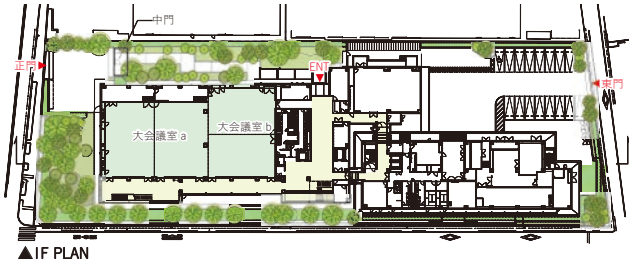
迎え見送るCLT造の門

防火構造が必要なところ準耐火構造とし、燃え代設計を行うことで木材現しを実現した。庇を大きく出し、雨掛かりに配慮し、壁はCLTに隙間を開け照明を仕込むシンプルな構成とし、木材の魅力を引き出した。

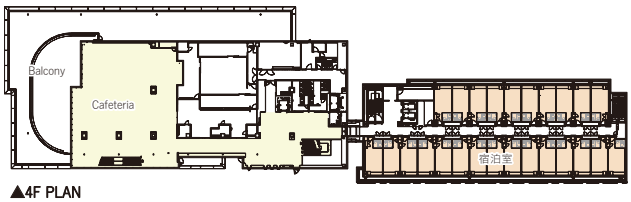
CLT 造木材現しの門



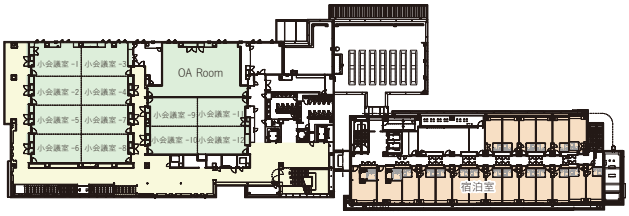
▲Section　　研修棟　　宿泊棟



▲1F PLAN



▲4F PLAN



▲2F PLAN

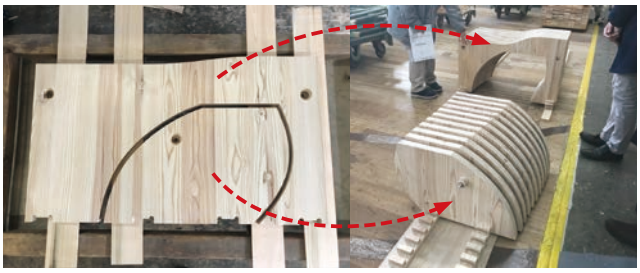
1Fエントランス　節のある表情が特徴的なヒノキ120角の飾り壁・ルーバー

1Fホワイエ 凹凸のあるヒノキ壁・CLT ベンチ・スギ天井ルーバー

2Fホワイエ スギの赤白混合煉付壁・CLT製ベンチ

気づきが生まれる仕掛け

各ホワイエ空間の木材を利用した家具には、座学学習の研修の休憩中に気づきが生まれる仕掛けを盛り込んだ。1枚のCLTから2つのパーツを無駄なく切り取り、外側同士、内側同士を並べることで、2つのベンチを制作した。形状、高さも異なるベンチだが、並べて配置し「地と図」の関係であることが垣間見れる仕掛けとした。



受賞概要・講評

TOKIO MARINE CAREER DEVELOPMENT CENTERは、東京都新宿区西落合に所在する保険会社の宿泊付研修施設である。建物内には岐阜県、茨城県、高知県等日本各地から調達した多様な樹種の木材が内外装・構造・家具等多岐にわたり活用されている。

女性活躍賞

本施設の建設に際し、永田氏・森本氏・粟野氏はそれぞれ施主・設計・施工の第一線で活躍された。各社に同年代の女性がいたことで、互いに意見を言いやすい雰囲気づくりやスムーズな意見交換ができ、女性目線を活かした3者一体となった建物づくりが行われた。

奨励賞

本作品については、天井のルーバーやCLTのベンチ等、施設内に多様な木の表現が施されている点、また外壁のデザインと既存樹木の調和性等が評価された。

撮影：©Nozomu Shimao/ 株式会社エスエス

温もりが滲み出すファサード
撮影：近代建築社

05

奨励賞

Gビル 自由が丘 01 B館

受賞者
設計者
施工者　株式会社フジタ
設計者　株式会社クライン・ダイサム

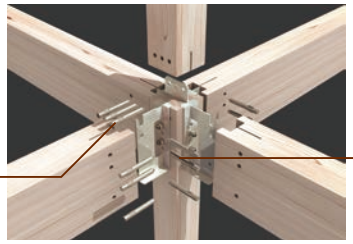
本計画は、商業空間と住環境が絡み合った自由が丘の街並みにふさわしい、人々を優しく受け入れるような居心地の良さを持った、「家」型のアイコニックな表情を持つ商業施設空間を作り出そうとする建築計画である。

地上３階、地下２階建て、近隣商業地域、準防火指定地域に“木質”の建築物ではなく“木造”を建築するに当たって選び出された応えは、１時間耐火の耐火木造工法の採用であった。

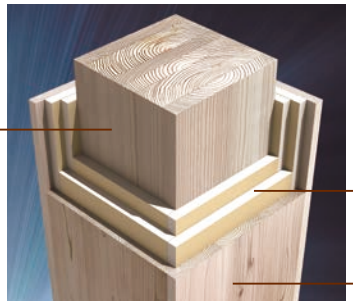
外壁はガルバリウム鋼板が屋根から側壁を覆い都会的なシャープな印象で外部空間を構成し、ガラスのカーテンウォールを透かし見る外部の袖壁から内壁への連続した杉板の壁、仕上材でもある木造の構造体は木の持つ優しさが感じられる内装空間となっている。

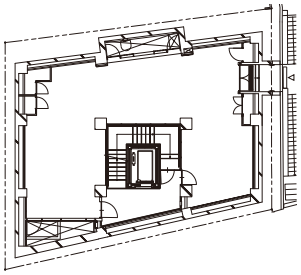
本計画は、本件にかかわる人々が統一された感性のもとに、建築物の柱、梁の躯体から内外装、家具などの什器備品まで「家」というコンセプトと合わせて「木」をつかうという一貫したテーマが表現された建物となった。

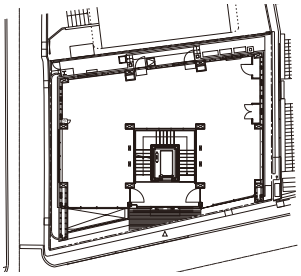
接合部納り

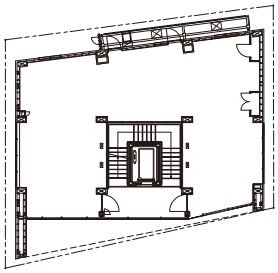


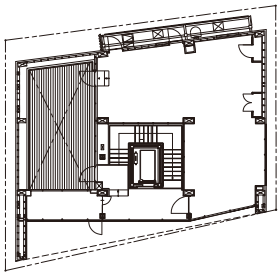
１時間耐火構造




B１階平面図S1:300


１階平面図S1:300


２階平面図S1:300


３階平面図S1:300

北側から見た建物

南側から見た建物

木造フレームが印象的な店内

開放的な屋上テラス

シンプルで温かみのある什器

店内の厨房

1階EVホール

3階店内の斜め天井

受賞概要・講評

東京都目黒区自由が丘に所在する、「家」型のアイコニックな表情を持つ商業施設空間。商業空間と住環境が共存する自由が丘の街並みに相応しい居心地の良さを持った建物を作るため、1時間耐火の耐火木造工法を採用し地上部分を木造とした。

本作品については、耐火工法を施した構造材の太さをあえて建物の特徴にしている点、また都市に木の軒先空間を与え、外からも木の良さが伝わる、街並みと調和する設計となっている点等が評価された。

06

奨励賞

神宮前３丁目プロジェクト（allée de JINGUMAE）

受賞者
設計者　株式会社アトリエ秀
施工者　株式会社 One's Life ホーム

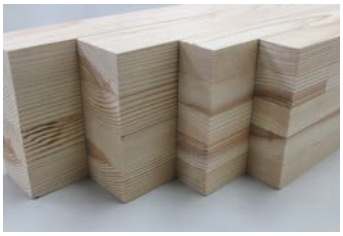
青山通り・南青山３丁目の交差点からキラー通りを 200m、路地を入って直にこの建物は佇む。周辺の木造と言えばビルの谷間に残る古い住宅程度、木造化が進まない中心市街地に於ける収益目的のテナントビルである。

本計画は建物本来の価値と魅力、そして時代の流れが速い商業地でのサスティナビリティを探求し「長寿命」を命題に掲げた。その為には時代の変化（時代やテナントの需要、所有者 or 使用者や用途の変更）への呼応＝可変性が必要条件、これを価値と踏まえ新たな魅力ある都市建築を目指した。

狭小敷地に対して重量鉄骨のフレームにより無理なく合理的に立体空間を切り抜き、可変領域を広げるべく、主要構造部の一部である床スラブ（屋根）、外壁の各構面を増改築の容易な木材（厚板集成材／床スラブ：CLT、外壁：WOOD.ALC）で構成した。また、木材の魅力を発揮すべく燃え代設計と床スラブを工夫、準耐火構造の性能を満たしながらも、屋内の壁・天井の全面露出を実現させた。これは自由な内装工事に対する下地工事の削減にも一役買うばかりか、スケルトン状態で既に十分にスタイリッシュで温かみある空間を提供している。これは室内が耐火被覆で覆われ易い木造準耐火をしのぐ木質感である。

一方、木材は都心でも可能な地産地消（多摩産材 CLT、福島県産材 WOOD.ALC）に拘り、工場製作＆加工済の集成材パネルを採用、明解な構成と既に確立されている施工体系（ALC 工事）での施工を可能とする事で、設計者及び施工者に高い木造のスキルを要せず、広く波及することを期するものである。

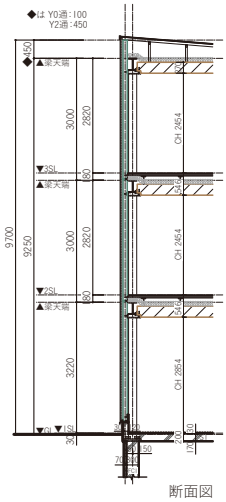
CLT
CLT（t270）：床スラブに使用



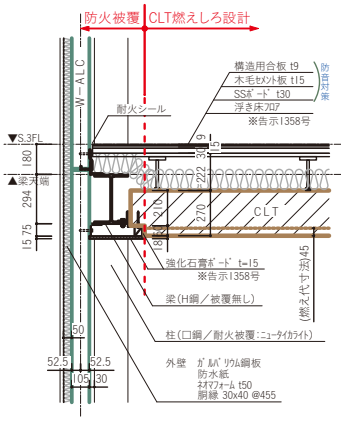
WOOD.ALC
WOOD.ALC（t105）：外壁に使用

7つのキーワード

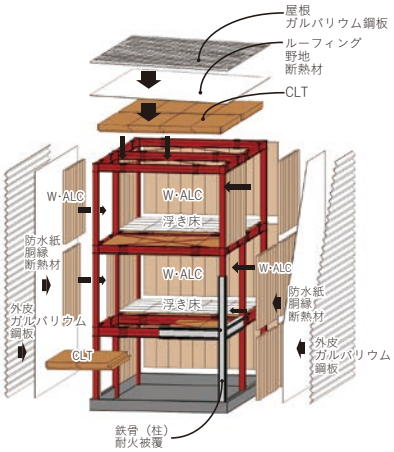
- 0か100ではなく無理せず皆で少しずつ（木材利用拡大に向け）
- 両輪で！
  - ・山の環境と都市の環境
  - ・中大規模木造と非木造建築の木質化
- 建て主への魅力とメリット 所有者にとって、使用者にとって
- 誰もが採用し易い〜オープン工法、木造業者と不慣れな業者
- 郊外の中低層大型施設への応用
- 非木造建築の木質化 非住居系建築の木質化
- 木材＝サスティナビリティ
  - ・時代や社会の変化に呼応できる建築（可変性・更新性）
  - ・ストック建築への汎用



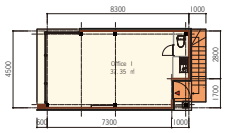
断面図



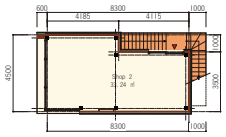
梁まわり詳細図



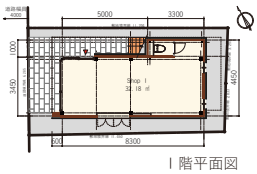
概念図



3階平面図



2階平面図



1階平面図

1階店舗（飲食店）

2階店舗（美容院）

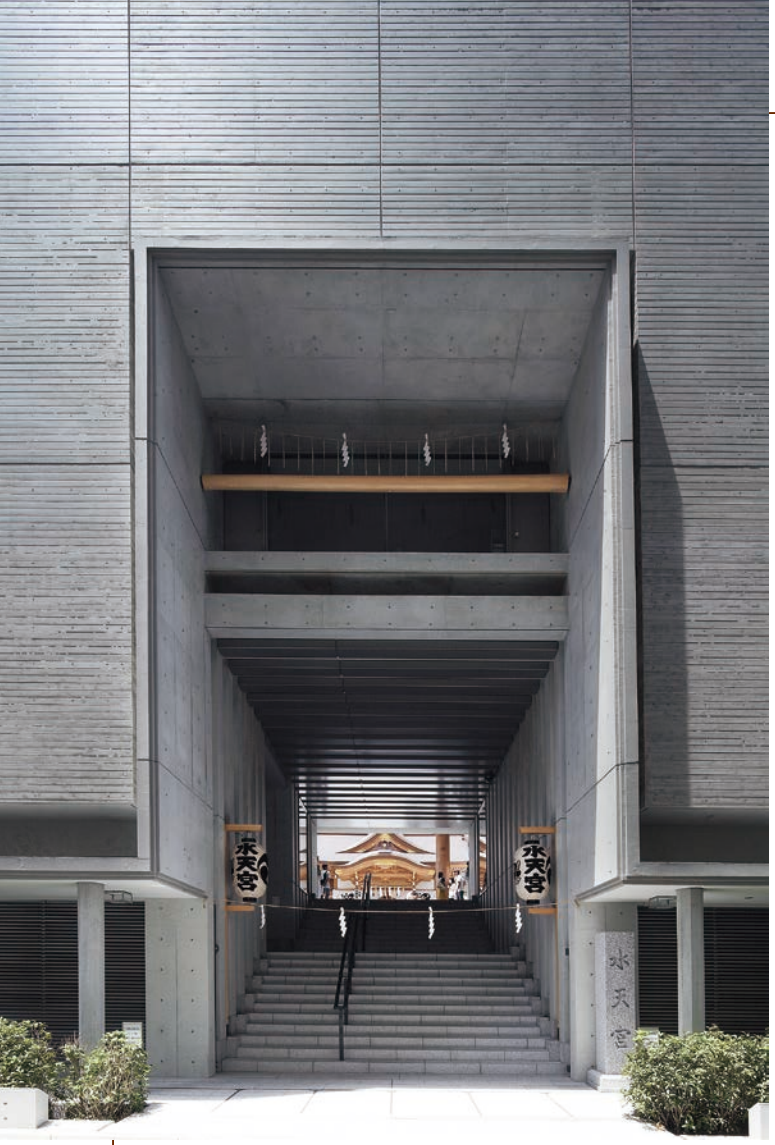
耐火被覆内を配線スペースとして活用

3階事務所

受賞概要・講評

東京都渋谷区神宮前に所在するテナントビル。都心の限られた敷地の中で有効に立体空間を切り抜くため、メインフレームは鉄骨、また主要構造部はサステナブルな建物を目指し厚板集成材（多摩産材CLT、福島県産材WOOD.ALC）を採用している。

本作品については、既に体系化されているALC工事での施工を可能とし模倣しやすくすることで、木材需要の拡大に寄与している点、また外観がコの字型にデザインされていることで表面の表情に変化が付き、印象深い建物になっている点等が評価された。



南側の入口部に臨む。奥に社殿が顔を覗かせる。参詣者は千本鳥居を模した大階段を上り、徐々に神域を深めながら２階レベルの境内へと進む。　撮影者：古川泰造

07

奨励賞
水天宮御造替（ごぞうたい）

受賞者
施　主　宗教法人 水天宮
設計者
施工者　株式会社竹中工務店

安産・子授けなどの御利益で知られる東京日本橋の神社「水天宮」の、江戸鎮座200年記念事業の一環として境内を一新した御造替（ごぞうたい）（※建替工事）である。12日に一度の戌（いぬ）の日や休祝日には多くの人が安産祈願に訪れるため、新社殿では何よりも参詣者の安全・安心を第一に考え、境内全体を基礎免震構造とし、鉄筋コンクリート造として耐火性能を確保した。

新社殿は本物の木造に見えるよう、コンクリート躯体の内外に宮大工の伝統技術を存分に活かし、吉野ヒノキなどの白木が美しい伝統木造様式を表現した。また、機能や法規に対応するため現代技術も最大限に適用しており、防火性能を満たすために浮かせた格縁天井、格子交点のピンスポット照明、天井スリット排煙口、格子建具の吸排気などの見せないディテールが、伝統建築の純粋性を高めている。構造的には、屋根荷重を支える木造作部の経年変化（収縮による隙間の発生）に対応するよう、斗栱が負担する荷重の一部をコンクリート柱ではなく木柱に伝達させる工夫を施している。これらにより、木割のプロポーションからディテールまで、伝統木造技術と現代技術の融合するハイブリッドな社殿を成立させた。

参集殿や社務所では金物やコンクリートと木の調和を意識しつつ、徐々に神域へと入る意識の高揚を喚起するよう留意して設計した。水天宮は地域に新たな歴史を刻むランドマークとして、平成28年より参詣者を迎え入れている。

２階境内夕景。右の待合スロープ部に整然とならぶ、社殿の木オーダーと調和する正八角形PC柱。
撮影者：光齋昇馬

２階神札授与所。暖かな光と木の空間が参詣者を迎え入れる。　撮影者：古川泰造

参詣者は２階からスロープ部を進み、社殿へと向かう。　撮影者：古川泰造

拝殿。柱や天井には吉野ヒノキを用いた。格子の交点のピンスポット照明や天井スリットによる排煙口などの「見せない」ディテールが、伝統建築の純粋性を支えている。　撮影者：古川泰造

６階茶室　撮影者：光齋昇馬

３階祭礼殿（第二祈祷殿）撮影者：光齋昇馬

水天宮通り北西側からの全景。社殿はコンクリート躯体の内外に白木の伝統木造洋式を表現。右の参集殿は歴史を参照したデザインで、社殿の背景となることを意図している。

撮影者：古川泰造

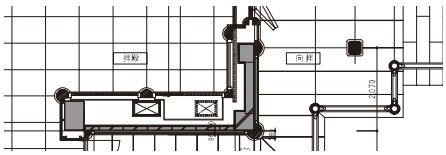
撮影者：古川泰造

灯篭　撮影者：光齋昇馬

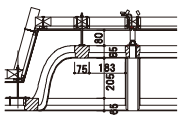
蟇股（幣殿部）　撮影者：古川泰造

撮影者：古川泰造

伝統木造技術と現代技術が融合する社殿



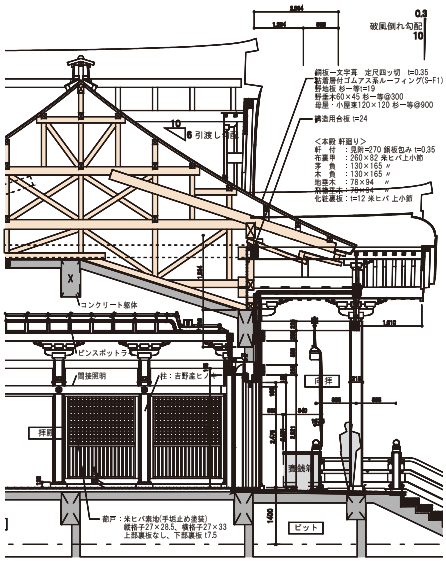
社殿部分平面図 1:100



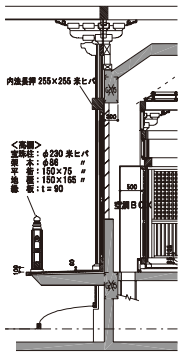
格縁天井のピンスポットライトは、器具本体を木格子に埋め込まず格子上部に見えないように露出させる納まりとし、放熱効果を向上させ光源に負担がかからないような形となっている天井に照明器具を見せない納まりとすることで、伝統建築の純粋性、神性を高めている。

伝統的な木造の社殿にしたいとの建築主の想いに応えるため、「インナーボックス構造」と呼ぶコンクリートのシェルターの内外に、宮大工の伝統木造技術を存分に活かして、RC造との混構造ながら純粋木造に見える表現に徹している。外周の木柱には長期の屋根荷重を負担させるように納まりを工夫し、水平力を分担するコンクリート壁とのハイブリッドな構造システムにより、経年クリープ変形や乾燥収縮による部材間の隙間の発生を抑制している。

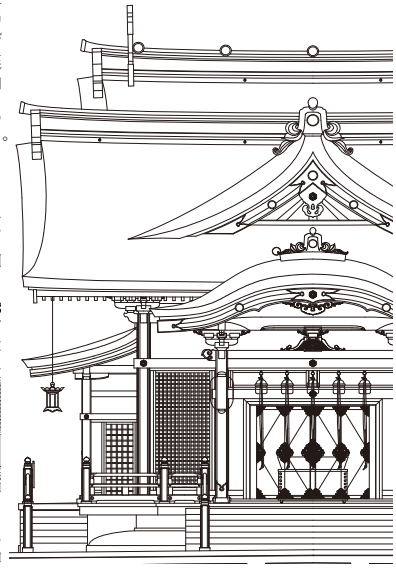
木柱とコンクリート柱の取合い部
撮影者：竹中工務店



社殿部分断面図 1:100



躯体－木柱 取合断面図

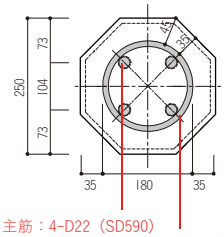


社殿部分 立面図 1:100

木屋根施工写真　撮影者：竹中工務店

構造模型　撮影者：竹中工務店

木柱とコンクリート柱のデザイン的な調和

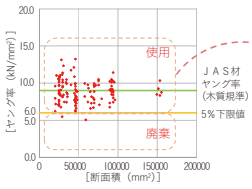


主筋：4-D22（SD590）
帯筋：S10-180φ@100（MK785）

1階廻廊のPC柱　撮影者：古川泰造

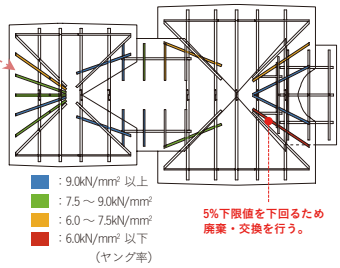
1階の廻廊や2階の待合（妊産婦）、スロープに建ち並ぶ柱は、社殿部の木オーダーと調和するように、新たに研究開発した超高強度（Fc120）、Φ=270mm（建築基準法上，二時間耐火性能を持つ柱としては最小径）の正八角形コンクリート柱を採用した。特殊なポリプロピレン繊維を組み合わせることで柱の耐火性能と触れた際の安全性を確保し、表面には杉板型枠の木目を転写して、緊張感のある神域に暖かさを付与している。この八角形柱はスケールや表現において伝統建築と現代建築のデザイン上の調和を実現させるとともに、広いとは言えない境内において、待合や参拝者動線の有効スペースの確保にも寄与している。

木材の施工管理と維持管理



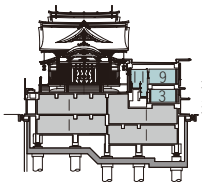
材ごとにIDを付与して管理し、実測されたヤング率を元に小屋組材をバランス良く配置。5%下限値を下回る材は廃棄、交換を行う。

図：測定結果

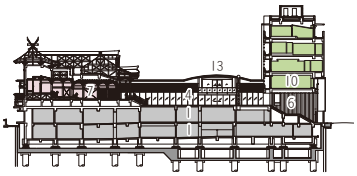


図：社殿屋根の主要木部材

木材の材料特性は個体差が大きい事から、主要部材については強度測定を行い、適切な配置計画を行った。竣工後についても、小屋組のクリープ変形により緩みが生じたアンカーボルトの増締め等の維持管理を行っている。また、木とRC躯体の乾燥期間を十分に確保する調達計画、および、施工計画（逆打ち工法）とすることで、木の材質に悪影響を与えないよう配慮した。



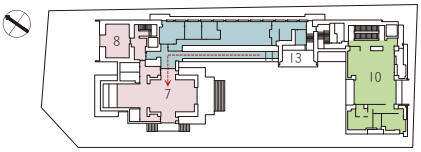
断面図（短手方向）1:1200



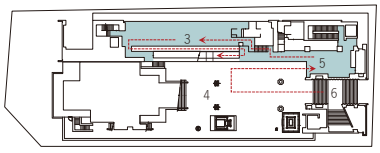
断面図（長手方向）1:1200

待合
参集殿
社殿
駐車場
参詣者の動線

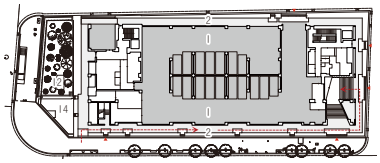
1：駐車場
2：廻廊
3：待合（妊産婦）
4：境内
5：神札授与所
6：大階段
7：社殿
8：祭礼殿
9：社務所
10：待合（家族）
11：スロープ
12：鎮守の杜
13：豆まきバルコニー
14：交番



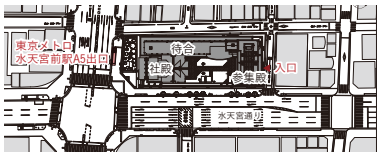
3階平面図　1:1200



2階平面図　1:1200



1階平面図　1:1200



案内図 兼 配置図 1:2000

受賞概要・講評

東京都中央区日本橋蛎殻町に所在する、安産・子授け等の御利益で知られる神社「水天宮」の、江戸鎮座200年記念事業の一環として行われた御造替（建替工事）である。RC造として耐火性能を確保しながらも、宮大工の技術を存分に活かし、吉野ヒノキ等の白木が美しい伝統木造様式を表現している。

本作品については、伝統技法と現代技法の絶妙なバランスにより、機能・法規に対応しつつ伝統技術を街中に遺している点、また経年変化（収縮による隙間の発生）に対応できるよう、荷重の一部が木柱に伝達されるよう施されている点等が評価された。

08

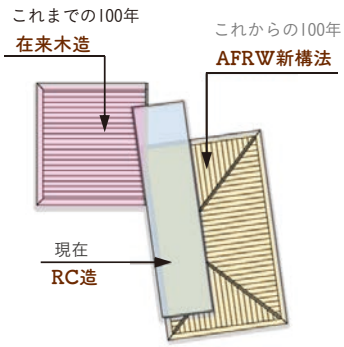
奨励賞
MIRAI LIVELY HOUSE

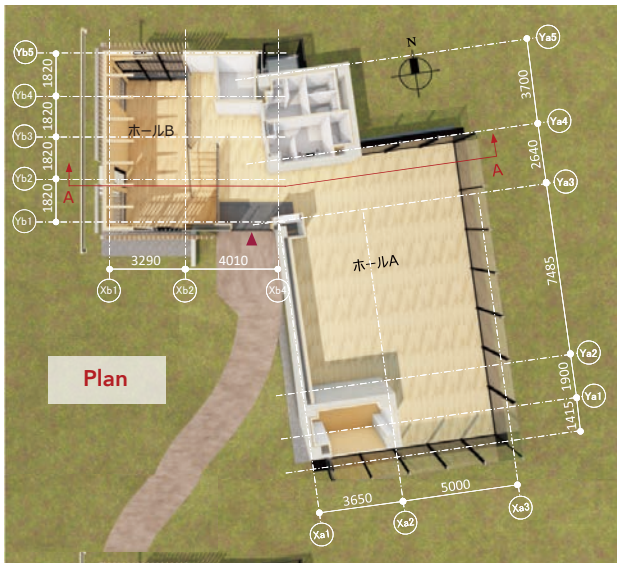
受賞者
施　主　帝人株式会社
設計者
施工者　前田建設工業株式会社

本施設は帝人の100周年記念事業の一環で建設された大小２つのホールを有する約180㎡の建物である。また、これは帝人が開発中の高機能繊維強化木材AFRW（Advanced Fiber Reinforced Wood）を用いた実用1号案件となるプロジェクトである。

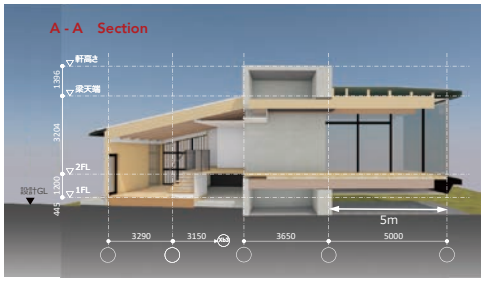
建物は『これまでの100年（過去）』、『現在』、『これからの100年（未来）』の３つの軸を構造の異なる３つのエリアにて構成。大ホールではAFRWが持つ軽量・高剛性といった特徴を活かし、これまでの木造建築では実現できなかった高い自由度の空間を無柱で構成しており、具体的には長さ８ｍのAFRWを屋根と床の梁材に使用し、中断面相当の断面と一般的な工法で５ｍものオーバーハングを実現した。また、本プロジェクトでは国産材の中でもっとも豊富なスギを選定しているが、高機能繊維で補強することで物性の弱いスギの剛性を３倍以上に補強し、これまでほとんど用いられることがなかった主要構造部への適用を可能にしている。

本技術により、木材需要の約４割を占める建築物において、スギ等の国産木材の利用促進効果が期待できる。また、柱の無い自由度の高い空間をコンパクトな木造躯体で実現した本建物は、高密度で限られた都市空間に最大限の空間を確保することが求められる大都市東京において、建築物を木造化するためのソリューションになり得るのではと考える。

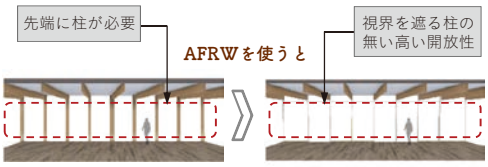




先進性



５ｍのオーバーハング



在来の木造の場合　　AFRWの場合

持続可能な開発目標

陸の豊かさも守ろう

国産材活用で森林循環を

気候変動に具体的な対策を

炭素の貯蓄庫として
木造で建てる

つくる責任つかう責任

サステナブル建築物

住み続けられるまちづくりを

これまでの木造にない
高い自由度のある空間

パートナーシップで目標を達成しよう

帝人×前田建設
AFRW×建設

エネルギーをみんなにそしてクリーンに

ZEB READY 取得予定

働きがいも経済成長も

現しの木だからこその癒やし

産業と技術革新の基盤をつくろう

汎用性の高い製作工程

国産材

スギ

木材使用量：4.1㎥
石川県産

耐久性：良い
気乾比重：0.38
強度：軟らかい

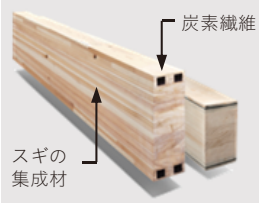
スギ

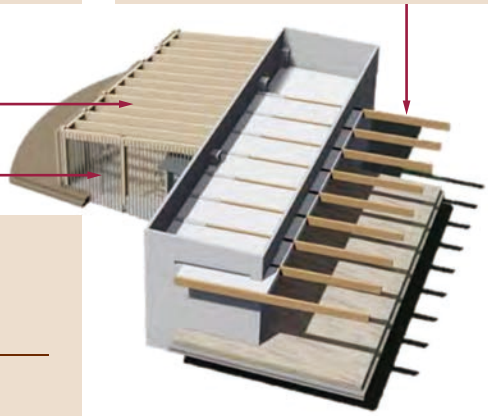
木材使用量：12.8㎥
愛媛県材

耐久性：良い
気乾比重：0.38
強度：軟らかい

＋ 炭素繊維

AFRW
（Advanced Fiber Reinforced Wood）





炭素繊維強化プラスチックス（CFRP）を集成材の上下にサンドイッチすることで、木材の軽量性を維持しながら曲げ強度と曲げ剛性を格段に向上させた複合木質材料。

ヒバ

木材使用量：1.4㎥
石川県産

耐久性：とても良い
気乾比重：0.37〜0.52
強度：並

受賞概要・講評

東京都日野市旭が丘に所在する、帝人の100周年記念事業の一環で建設された研究所員向け福利厚生施設であり、帝人が開発中の高機能繊維強化木材AFRWを用いた実用１号案件となるプロジェクトである。

本作品については、愛媛県産のスギを炭素繊維で補強した集成材に加工し、曲げ強度と曲げ剛性を補強することで、これまで用いられにくかった主要構造部への木材利用を可能にした技術力、またそれにより今後の建築物の木造化への可能性を示している点等が評価された。

杜の中の佇む東屋をイメージ、低反射ガラスを使用することで建物が杜の緑に溶け込む
撮影：齋部 功

09

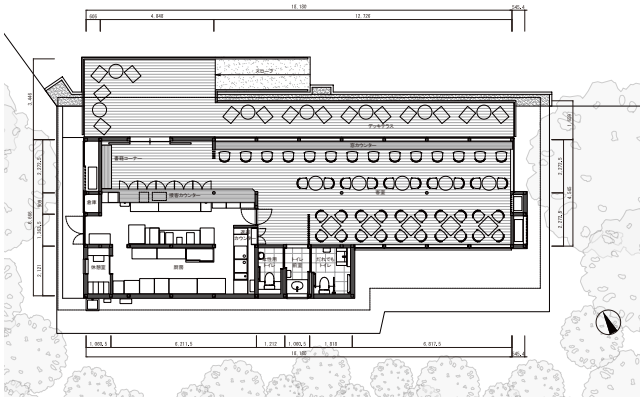
奨励賞
明治神宮 CAFÉ「杜のテラス」

受賞者
設計者　オークヴィレッジ木造建築研究所
施工者　オークヴィレッジ株式会社

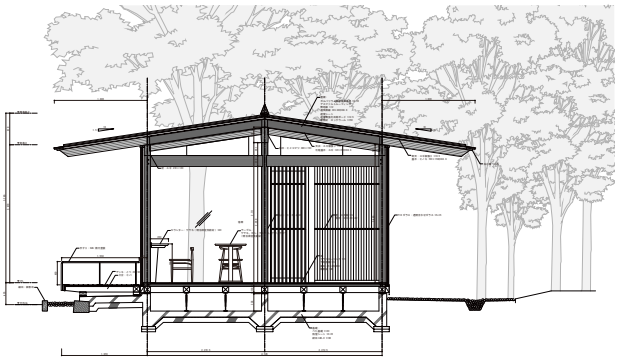
明治神宮は2020年で鎮座100年を迎え、全国から奉納された木々を、多くの若者たちの勤労奉仕によって植樹し、大切に育てられてきた。JR原宿駅の改修工事に伴い、これまであった明治神宮の休憩所を移転することとなり、南参道入口に、この豊かな杜に相応しく、多くの人たちが利用できる休憩所を建替えたいと要望があった。

そこで、この杜の中に佇む東屋のように、木漏れ日や香りを感じながら休憩できる場にしたいと考えた。構造材には飛騨の杉、桧、松を使用し、伝統的な構法による木組みの木造とすることで、長い年月に耐えうるものとした。また明治神宮では、この杜で育った木々のうち台風や大雪で倒れた枯損木を保管しており、その一部を建物に利用したいとの要望があった。そこで、入口正面の接客カウンターや客席カウンターにはこの杜で育った欅・銀杏を、店内の建具には楠を使用することで、室内には良い香りが漂っている。テーブルの天板や椅子には欅・樫・楢・楠・桜の枯損木からできている。

先人達が100年先の杜を予想し、適地適木の樹種を選定したことでこの豊かな杜を今見ることができる。同じように、100年先もこの地に佇む建物を想像する時、全国各地で長い年月に耐え、今なお残る建物として木造があることを我々は知っている。循環型の社会を構築するためには、枯渇することのない資源を使い、ものづくりをしなければならない。そのひとつの回答として木造があるのだと思う。



平面図　S:1/100



断面図　S:1/50

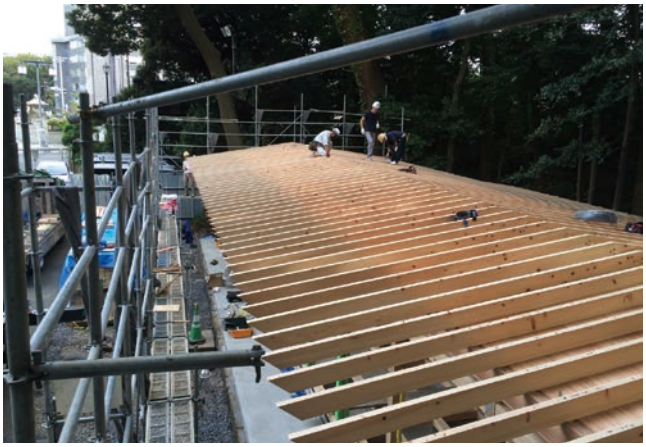
カウンター、テーブル、椅子、建具には明治神宮の枯損木を使用　撮影：齋部 功

店内からは南参道入口の大鳥居や原宿の街が見える　撮影：齋部 功

内装・家具も無垢の木にこだわる　撮影：齋部 功

材料準備、加工は飛騨高山の工房で行う　撮影：齋部 功

接合部には金物を使わず伝統的な木組みの構法で部材を繋ぐ　撮影：齋部 功



垂木がかかり建物のかたちが出来ていく　撮影：オークヴィレッジ株式会社

撮影：齋部 功

受賞概要・講評

東京都渋谷区代々木神園町に所在する、2020年で鎮座100年を迎える明治神宮の、南参道入口にある休憩所。岐阜県産のスギ・ヒノキが構造材や内外装等に使用されたほか、明治神宮内で育ち、台風等で倒れた枯損木が家具や建具に活用されており、木の香りを感じることのできる建物となっている。

本作品については、周囲の豊かな杜に馴染んだモダンでさりげないデザイン性、また長い年月に耐えうるための伝統構法による木組み等が評価された。

ウッドシティTOKYOモデル建築賞 受賞作品所在地情報

01 最優秀賞

柳小路南角（やなぎこうじみなみかど）

〒158-0094　東京都世田谷区玉川3-13-7

URL
https://www.yanagikoji.com/minamikado/index.html

アクセス
東急田園都市線・東急大井町線
「二子玉川駅」西口より徒歩5分

施設見学について
テナント建物として運営しておりますので、営業時間内に、
ぜひお買い物やお食事を楽しみながら、建築物をご覧ください。
（各店舗の営業時間はURLをご参照ください。）

02 優秀賞

神田明神文化交流館 EDOCCO

〒101-0021　東京都千代田区外神田2-16-2

URL
https://edocco.kandamyoujin.or.jp/

アクセス
JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口より徒歩5分
JR京浜東北線・山手線「秋葉原駅」電気街口より徒歩7分
東京メトロ丸の内線「御茶ノ水駅」1番口より徒歩5分
東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」B1出入り口より徒歩5分
東京メトロ銀座線「末広町駅」より徒歩5分
東京メトロ日比谷線「秋葉原駅」より徒歩7分

施設見学について
文化交流館1階：神札授与所・CAFE　MASUMASU（カフェ）・SHOP　IKIIKI（お土産）
ぜひお買い物やお食事等を楽しみながら、建築物をご覧ください。（館内の営業時間は9：00〜19：00です）

03 優秀賞

日野わかくさ幼稚園

〒191-0034　東京都日野市落川943

アクセス
京王線「百草園駅」から川崎街道を
聖蹟桜ヶ丘方面へ徒歩2分

施設見学について
施設見学をご希望の方は下記までご連絡ください。
株式会社彦根建築設計事務所 アンドレアチーム
Tel.03-5429-0333／Email:infoandrea@a-h-architects.com

URL
日野わかくさ幼稚園HP
http://www.big.or.jp/~wakakusa/

彦根建築設計事務所HP
http://www.a-h-architects.com/andrea/works/hwy/

04 女性活躍賞・奨励賞

TOKIO MARINE CAREER DEVELOPMENT CENTER

〒161-0031　東京都新宿区西落合2-18-12

アクセス
JR線・東京メトロ「中野駅」よりバス（※）12〜15分
都営大江戸線「落合南長崎駅」より徒歩10分
西武新宿線「新井薬師前駅」より徒歩15分
西武池袋線「東長崎駅」より徒歩20分

（※）JR「中野駅」北口　0番乗り場より関東バス乗車。停留所「哲学堂公園入口」下車。研修所目の前にバス停留所有。

05 奨励賞

Gビル　自由が丘01　B館

〒152-0035　東京都目黒区自由が丘2-9-19

アクセス
東急東横線・東急大井町線
「自由が丘駅」正面口より徒歩約5分
KOE HOUSE（店舗名称）

施設見学について
テナント建物として運営しておりますので、営業時間内にぜひお買い物やお食事を楽しみながら、建築物をご覧ください。
（店舗の営業時間は11：00〜20：00（平日）、10：00〜20：00（土日祝）です）

URL
フジタホームページ
https://www.fujita.co.jp/gallery/detail/g01b_1.html

クラインダイサムアーキテクツホームページ
http://www.klein-dytham.com/koe-house-jiyugaoka/rt0fnraj3fnodu5jdfzh3d0y9hhrsr

06 奨励賞

神宮前3丁目プロジェクト（allée de JINGUMAE）

〒150-0001　東京都渋谷区神宮前3-1-25

アクセス
東京メトロ「外苑前駅」より徒歩6分、
東京メトロ「表参道駅」より徒歩10分

施設見学について
施設見学をご希望の際は下記までメールでお問合せください。
（各階テナント入居の為、原則、室内の見学はできません）
㈱アトリエ秀：info@a-shu.co.jp

URL
（株）アトリエ秀
PROJECT
（改定中）

（一社）日本CLT協会
利用例
http://clta.jp/cases/7795/

日本WOOD.ALC協会
施工事例
http://walc.jp/works/1427

07 奨励賞

水天宮御造替（ごぞうたい）

〒103-0014　東京都中央区日本橋蛎殻町2-4-1

URL
http://www.suitengu.or.jp/access/

アクセス
東京メトロ半蔵門線「水天宮前駅」5番出口より徒歩1分
東京メトロ日比谷線「人形町駅」A1出口より徒歩6分
都営地下鉄浅草線「人形町駅」A3出口より徒歩8分
都営地下鉄新宿線「浜町駅」A2出口より徒歩12分

施設見学について
境内等は自由にお入りいただけます。（開門時間は7：00〜18：00です）

08 奨励賞

MIRAI LIVELY HOUSE

〒191-8512　東京都日野市旭が丘4-3-2

アクセス
電車でお越しの方は、JR中央線「豊田駅」北口より京王バス「平山工業団地循環」で約5分、
「平山工業団地」バス停下車後、徒歩で約2分

URL　社内施設のため一般向けのウェブサイト等は特にございません。

施設見学について
施設見学をご希望の際は下記メールまでお問合せください。
（研究所内施設のため、原則、常時の開放はしておりません）
帝人㈱　松尾宛：ju.matsuo@teijin.co.jp

09 奨励賞

明治神宮CAFÉ「杜のテラス」

〒151-0052　東京都渋谷区代々木神園町1-1

アクセス
JR山手線「原宿駅」
東京メトロ千代田線・副都心線
「明治神宮前（原宿）駅」より徒歩3分

施設見学について
営業時間は9：00〜明治神宮閉門時間（月により異なります）です。参拝後のひと時に、ぜひお食事を楽しみながら、建築物をご覧ください。

URL
明治神宮FOREST TERRACE HP
https://www.meijikinenkan.gr.jp/forestterrace/

オークヴィレッジ木造建築研究所HP
https://www.oakv.co.jp/kenchiku/

令和元年度

ウッドシティTOKYOモデル建築賞
受賞作品集

発　行
令和２年２月

発行者
東京都 産業労働局 農林水産部 森林課
東京都新宿区西新宿2-8-1（電話：03-5320-4855）

制　作
日経イベント・プロ

協力
三井嶺建築設計事務所
坂田涼太郎構造設計事務所
宗教法人神田神社
鹿島建設株式会社建築設計本部
鹿島建設株式会社東京建築支店
株式会社彦根建築設計事務所
株式会社和田工務店
学校法人清谷学園日野わかくさ幼稚園
東京海上日動火災保険株式会社
株式会社三菱地所設計
清水建設株式会社
（仮称）東京海上日動西落合研修所新築工事共同企業体
株式会社フジタ
株式会社クライン・ダイサム
株式会社アトリエ秀
株式会社 One's Life ホーム
宗教法人水天宮
株式会社竹中工務店
帝人株式会社
前田建設工業株式会社
オークヴィレッジ株式会社
オークヴィレッジ木造建築研究所
（順不同）